



# 第63回 イギリスとフランスの発展

## 1 イギリスの発展

- イギリスでは、( ) のノルマン=コンクエストにより、1066年に( ) が成立していた。
- 1154年にノルマン朝が断絶すると、フランスの貴族で( ) であったアンリが、新たにイギリス王となった。

### ☆イギリス ( ) (1154~1399年)

- ◆ ( ) (在位 1154~1189年)
  - 1154年、イギリスに進出してプランタジネット朝を開いた。
- ◆ ( ) (獅子心王) (在位 1189~1199年)
  - 1189年、神聖ローマ皇帝フリードリヒ1世、フランス王( ) とともに、第3回十字軍に参加した。
  - アイユーブ朝の( ) と戦った。



ヘンリ2世

血筋的には、ウィリアム1世のひ孫にあたる。フランスにおける領土も保持し続けており、どちらかといえばイギリスよりフランスにいたることが多かったようだ。



リチャード1世

ヘンリ2世の子どもである。第3回十字軍については、第58回のプリントを勉強しておこう。最後は肩にクロスボウが当たり、その傷がもとで死去した。



映画『ロビン=フッド』

イギリスで最も親しまれている英雄ロビン=フッドは、この時代を舞台に活躍している。実在は不明だが、悪をこらしめ庶民を助ける義賊として知られる。



- ◆ ( ) (失地王) (在位 1199~1216年)
  - フランス王( ) と争い、多くの大陸領土を失った。
  - カンタベリ大司教の任命権をめぐるローマ教皇( ) と対立し、あっさり破門された。
  - 財政難におちいったため、ジョン王は国内で重税をかけ始めた。
  - 反発した貴族は、1215年、国王の権限を制限する( ) を認めさせ、イギリス立憲政治の基礎が作られた。

ジョン王  
無能、暴虐、陰謀好き、裏切り者、恥知らずと、評価は散々である。



ヘンリ3世

在位は50年以上だが大した成果はない。

- ◆ ( ) (在位 1216~1272年)
  - マグナ=カルタを無視したため、貴族( ) が反乱を起こし、1265年、定期的な議会開催を認めさせられた。※イギリス議会の起源。

- ◆ ( ) (長脛王) (在位 1272~1307年)
  - スコットランドやウェールズに対して、盛んに遠征を行った。
  - 1295年、身分制議会である( ) を開催した。
  - 後の14世紀半ばには、上院と下院からなる二院制議会が成立した。
  - ( ) と呼ばれる地主が、下院で勢力をもった。



エドワード1世

身長190cm以上あった。映画『ブレイブハート』では悪役。



## 2 フランスの発展

- ・987年、( )家が断絶し、パリ伯の( )が西フランク王に選ばれた。これ以後は西フランク王国をフランス王国と呼んでいる。

### ☆フランス王国 ( ) (987~1328年)

#### ◆ユーグ=カペー (在位 987~996年)

- ・王権は非常に弱く、本拠地のパリ周辺しか支配できなかった。

#### ◆ ( ) (尊厳王) (在位 1180~1223年)

- ・1189年、神聖ローマ皇帝フリードリヒ1世、イギリス王リチャード1世とともに、第3回十字軍に参加した。
- ・またイギリス王( )と争って、多くの領土を獲得した。
- フランス王の王権は、この時代に大きく増大した。



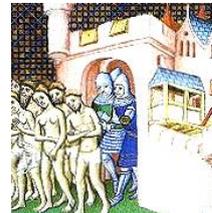
ユーグ=カペー

カペー朝の成立については、第55回をもう一度見直しておこう。本名はロベールだが、長い丈のコートをいつも着ていたため、「カペー」と呼ばれるようになった。



フィリップ2世

ブサイクでハゲで短足ではあったが、初期のフランスを代表する偉大な国王である。パリ大学を設立し、アルビジョワ十字軍を始めたのも彼である。



カタリ派の追放

マニ教の影響を受けたキリスト教の異端を、カタリ派という。南フランスのアルビを拠点としたカタリ派を、アルビジョワ派といった。現在は消滅した。



ルイ9世

最後は十字軍の途中で病没した。

#### ◆ ( ) (聖王) (在位 1226年~1270年)

- ・1229年、南フランスの( )に対して( )を行って撲滅し、フランスの王権をさらに強化した。
- ・1253年、( )をモンゴルに派遣した。
- ・また単独で第6回、7回十字軍を行ったが失敗した。

#### ◆ ( ) (端麗王) (在位 1285~1314年)

- ・教会への課税をめぐり、ローマ教皇( )と対立した。
- 1302年、国内支持を固めるため身分制議会である( )を開いた。
- ・1303年、ボニファティウス8世を監禁する( )を起こした。
- 教皇はしばらくして釈放されたが、屈辱のうちに憤死した。
- 教会の権威が失墜していることがはっきりした。
- ・1309年、ローマ教皇を南フランスの( )に強制移住させた。
- ※これを「 」という。



フィリップ4世

顔立ちが整っていたために、端麗王と呼ばれた。しかし教皇との対立やテンプル騎士団の解体など、やっていることはかなり激しい。

- ・1378年、教皇がローマに戻ったあと、これに対抗してフランスにも別の教皇が擁立された。

→この状態を( )といい、ローマ教会が分裂したことにより教会の権威はさらに失墜した。



アヴィニョン

クレメンス5世がアヴィニョン最初の教皇。教皇庁があった地域は、世界遺産となっている。童謡の「アヴィニョンの橋の上で」でも知られる。